

令和4年度
九州地方環境パートナーシップオフィス
九州地方 ESD 活動支援センター
年次報告書

(令和4年4月～令和5年3月)

一般社団法人 九州環境地域づくり

目次

| | |
|--------------------------------|-----|
| I. 業務の概要 | 1 |
| II. 業務の実施状況 | 3 |
| 1. 運営委員会・企画運営委員会の開催 | 3 |
| 2. 基本業務 | 12 |
| (1) 横断的な情報の収集及び発信 | 12 |
| (2) SDGs・ESD コンシェルジュ機能の強化 | 16 |
| (3) EPO ネットワークの活用 | 27 |
| 3. 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務 | 33 |
| (1) 地域循環共生圏プラットフォームの環境整備支援等業務 | 33 |
| (2) 森里川海推進ネットワーク形成会合の開催 | 57 |
| (3) 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業 | 59 |
| 4. ESD 活動支援センター運営業務 | 64 |
| (1) ESD コンシェルジュ活動 | 64 |
| (2) 地域ぐるみの ESD 活動モデル事例形成プロジェクト | 77 |
| (3) ESD for 2030 学び合いプロジェクト | 100 |
| (4) 地域脱炭素実現に資する気候変動教育実施体制構築 | 103 |
| (5) 地域ぐるみの ESD 活動の推進 | 106 |
| (6) 全国センターとの連携 | 107 |
| 5. 外部連携事業（外部資金を活用した取組） | 110 |
| (1) 地球環境基金との連携 | 110 |
| (2) Green Gift 地球元気プログラムへの協力 | 113 |
| 6. EPO 九州の維持管理 | 119 |

I. 業務の概要

年間計画に基づき、下記業務を行った。

1. 運営委員会・企画運営委員会の開催
2. 基本業務
3. 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務
4. 九州地方 ESD 活動支援センター運営業務
5. 外部連携事業（外部資金を活用した取組）
6. EPO 九州の維持管理

なお、運営にあたっては中期目標にもとづき各業務の目標を設定しこれに取り組んだ。

第5期中期目標

- ・環境を切り口とするローカルSDGs（地域循環共生圏）・地域脱炭素実現に向けた地域課題解決への貢献

1, 基本業務 ローカルSDGsの認知度向上、ローカルSDGsに取り組む実践主体の増加

- ・そもそもSDGsを知らない者や、ローカルSDGsに取り組みたいがどうすれば良いか分からない者などを対象に、SDGsの普及・啓発やSDGsに関する情報発信・相談対応・助言等を実施する。

2, 地域循環共生圏推進 ローカルSDGs実現に向けた地域課題解決の取組の推進、モデル事例の創出

- ・多様なステークホルダーが連携して地域課題解決に向けて取り組もうとする地域の動きの加速化、伴走支援等

3, 九州ESDセンター 地域ぐるみのESD活動の推進による地域課題の解決に資する人材の育成

- ・ESD活動に関する情報発信、ESD活動推進に関する相談対応、地域ぐるみのESDモデル事例の創出・横展開

また、ローカルSDGs・地域脱炭素実現に向けた課題解決支援を担うEPOの役割と、その課題解決を推進する人材育成を担うESDセンターの役割を効果的に発揮させるため、運営においてはこれらを一体のものとして展開し、各業務の相乗効果を測った。

ローカルSDGs 地域脱炭素他実現に向けた取組推進

基本業務 情報受発信・コンシェルジュ機能のワンストップ化

地域課題解決支援

EPO九州

- 地域循環共生圏推進
- 森里川海ネットワーク
- 金融機関等と連携した基盤強化

推進する人材育成

ESDセンター

- 学び合いプロジェクトの推進
- 地域ぐるみESD活動支援
- 気候変動教育の推進

運営委員会・企画運営委員会

運営体制：スタッフ6名

運営団体

九州地方環境事務所

Ⅱ. 業務の実施状況

1. 運営委員会・企画運営委員会の開催

EPO 九州ならびに九州 ESD センターの活動について、環境パートナーシップや ESD に関する NPO、企業、行政、教育関係者、メディア、有識者等を運営委員として選定し、助言ならびに取組に応じた協力・連携を得て、円滑かつ効果的な運営に取組んだ。

運営委員会は、EPO 九州・九州 ESD センターの運営方針、事業計画について協議を行うとともに、九州・沖縄地域内の環境パートナーシップや ESD 推進ネットワーク形成に係る情報交換や実態の把握とそれらをとおした課題の洗い出しを行い、EPO 九州の運営や事業実施についての助言を行う。本年度は2回開催した。また、九州地方 ESD 活動支援センターの運営にあたり、企画運営委員会を併設し、委員会について同時開催した。

また、第1回、第2回において次期運営における運営委員会・企画運営委員会の在り方について、事務局より提案を行った。

ア、令和4年度委員

【EPO 九州運営委員】

| | 分野 | 県 | 氏名 | 所属 |
|----|-----------|------|-------|---|
| 1 | 学識経験者 | 熊本県 | 篠原 亮太 | 熊本県立大学 名誉教授 熊本県環境センター 館長 |
| 2 | 学識経験者 | 福岡県 | 石丸 哲史 | 国立大学法人福岡教育大学 副学長 ※企画運営委員兼任 |
| 3 | 学識経験者 | 長崎県 | 山口 純哉 | 国立大学法人長崎大学経済学部 准教授 |
| 4 | 金融・ファンド | - | 佐古 吉照 | 日本政策金融公庫 農林水産事業本部 九州地区統轄 |
| 5 | 企業・環境ビジネス | 福岡県 | 箴島 修三 | 一般社団法人九州経済連合会 産業振興部長 |
| 6 | 地方公共団体 | 福岡県 | 杉本 英之 | 北九州市 環境局総務政策部 総務課長 兼 環境 学習課長 |
| 7 | ソーシャルビジネス | 福岡県 | 濱砂 清 | (一社) S I N K a / 社会起業家支援ネットワーク 九州・アジア 代表理事 |
| 8 | メディア | 宮崎県 | 田代 学 | 宮崎日日新聞社 常務取締役営業局長 兼 経営企画室長 |
| 9 | NPO・中間支援 | 佐賀県 | 橋本 辰夫 | NPO 法人温暖化防止ネット |
| 10 | 自然共生・啓発 | 鹿児島県 | 浜本 奈鼓 | NPO 法人くすの木自然館 理事 ※企画運営委員兼任 |
| 11 | NPO・中間支援 | 沖縄県 | 岸信 朋 | 合同会社 MIRAIME. Lab 代表 |

【九州 ESD センター企画運営委員】

| | | | | |
|---|------------|-----|-------|--|
| 1 | ESD 実践団体 | 福岡県 | 日高 京子 | 北九州 ESD 協議会 運営委員長 |
| 2 | 地方公共団体 | 熊本県 | 梶原 桂子 | 熊本市環境局 環境推進部 環境政策課長 |
| 3 | 企業・公益活動 | 熊本県 | 大野 芳範 | 公益財団法人肥後の水とみどりの愛護基金 専務理事 |
| 4 | 学識経験者 | 沖縄県 | 大島 順子 | 国立大学法人琉球大学 国際地域創造学部 観光地域デザインプログラム 准教授 |
| 5 | ESD 普及啓発団体 | 大分県 | 桑野 恭子 | 認定指定 NPO 法人地域環境ネットワーク |

イ、運営委員会の開催状況

■運営委員会及び企画運営委員会の開催状況 ※一体開催

| | |
|------|--|
| 行事名 | 第1回 九州地方環境パートナーシップオフィス 運営委員会 第1回 九州地方 ESD 活動支援センター 企画運営委員会 |
| 開催日等 | 日 時：令和4年5月31日（火）14:00-16:30 ※地域循環共生圏・ESD 事業 事前説明 13:00-14:15 会 場：熊本市国際交流会館4階 第3会議室（熊本市） ZOOM によるオンライン開催 出席者：14名 |
| 目的 | 令和3年度の運営状況の報告、令和4年度運営計画の協議・助言、および個別事業に対する連携内容を検討する。委員会開催前に事前説明のセクションを設け、全国及び地方 EPO 事業の内容、機能、そして地域循環共生圏事業、ESD 事業について補足説明を実施する。 また、令和5年度以降、両委員会の一体化と人数整理を目的とした委員会設置要綱の改正について委員への提案を行う。 |
| 概要 | <次第> 1. 開会 2. 出席者紹介 3. 令和3年度評価委員会報告 4. 令和4年度 EPO 九州運営報告について 5. 令和4年度九州 ESD センター運営報告について 6. 次年度以降の委員会の在り方について 7. その他 |
| 成 果 | EPO 九州の第5期運営最終年度として、設定した中期活動方針に沿って基本業務及び地域循環共生圏事業、地方 ESD センターの活動について示し、各委員の専門的な知見より助言を得た。 各委員からは基本業務としての情報発信のあり方や、金融機関との有効な連携手法の提案、ESD に関する優良な取り組み・支援事例の共有の活発化、SDGs と ESD の連携などについて具体的な提案があり、今年度業務計画の策定に反映した。 |

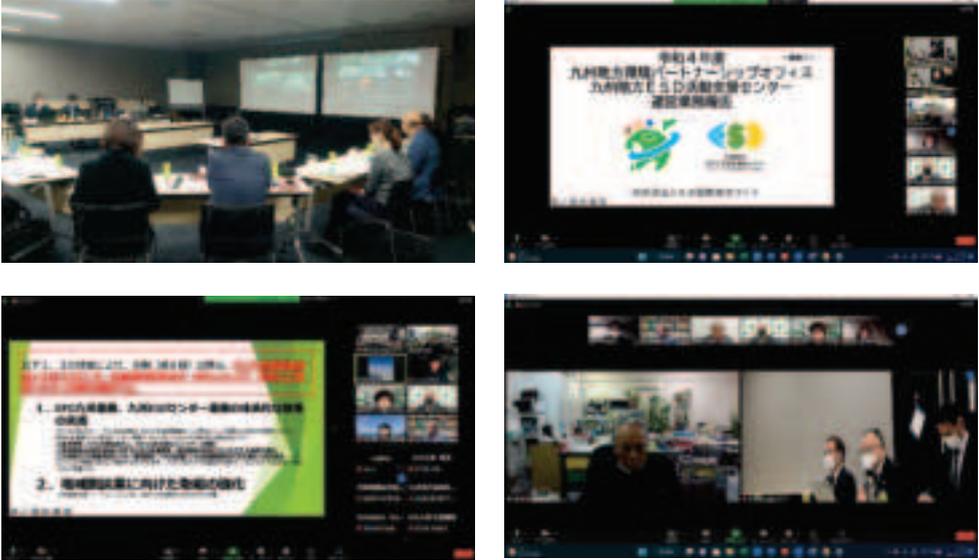
| | |
|---------------------|--|
| | <p>また EPO 九州運営委員会設置要綱の改正について各委員へ提案を行い、EPO 九州業務と九州 ESD センター業務の体系的な整理を目的に、両委員会の一体的な実施について説明した。</p> <p>地域脱炭素の実現やプレイヤーの増加に向けて一体となった助言をいただくなど、令和5年度以降に新体制にて業務運営を行うことで了承が得られた。</p> |
| <p>検討 指摘事項等</p> | <p>●EPO 運営</p> <ul style="list-style-type: none"> • EPO 九州が発信する情報が多数ある中でも、人間味のある発信や、現場での雰囲気や伝わるような掲載を検討いただきたい。 • ESD 支援において、発信する環境教育コンテンツによって、利用者にとってどのような変化が起こったというような実例があれば、コンテンツを使う動機づけになるのではないかと。 • 地域メディアとの活動成果は重要で、連携を強めていただきたい。 • 選ばれる情報発信と意識した活動が必要だろう。 • 脱炭素社会の推進と生物多様性の保全において、一部地域では矛盾した取り組みという受け止めから市民活動への影響が出ており、広いインプットが必要。 • ESD や地域脱炭素に関する情報が氾濫していることから、関心層に向けて常態的に鮮度のある情報を届ける活動が求められる。 • 金融機関の内部では人手不足であり、環境パートナーシップ構築に向けた協力が得づらい状況が続いている。 • 理解を拡大するにあたってはストーリー性を持った情報伝達が必要で、そのためにはプロジェクト期間中の見立ての更新が必要だ。 • 金融機関の協力を得るために、地域に原動力となる事業者がいるのか。またいたとしてどのように支援するかを検討が必要である。どのように稼ぐ事業なのかというイメージがないと金融機関は動きづらい。核となる事業者の課題を基に他の事業者へとつなぐような活動が重要だろう。 <p>●ESD センター運営</p> <ul style="list-style-type: none"> • 熊本市立城南中学校におけるキャリア教育支援の取り組みは優れており、ぜひ地域間でも共有していただきたい。 • キャリア教育の目的として生徒自身のキャリア形成にどのようにプログラムが繋がっていくかが問われる。学びあいプロジェクトでは SDGs に向かうことでどのような達成があるかという仮説立証が必要。 • このような学校現場での支援は有効だが、教職員の異動に耐えうるシステムであるかがボトルネックとなっており、長期間の活動の成果が生まれづらい。 • 単なる職場体験に終わることで職業観が形成されるか疑問視されている。イノベーターを地域に生み出す土壌がなく、社会課題解決ビジネスを行う気概を持った人材育成がキャリア教育と結びつくのではないかと。 • 業種が多様化、細分化する中で、どのように職業選択を行うかは日頃から情報を与えていく必要がある。 • 沖縄県でも地域 ESD が拡大していて、SDGs の達成に向けて ESD の枠組みが必要という認識が広がっている。 • 屋久島町など島嶼地域で実現している持続的な ESD 手法に学びながら、ESG 投資との接続など資金運営面でも支援のあり方を検討してほしい。 |

| | |
|----|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ESD の推進においては、他の地域と意見交換ができる場があることで、人材不足を補うことができるため、ぜひ地域を交えた展開を行っていただきたい。 気候変動教育については実践が難しい。温暖化防止活動支援センターでは脱炭素経営推進を目的とした事業が主となっている。中小企業から理解を得るのが困難で、低炭素の暮らしについて発信するような場作りが有効ではないかと考える。 温暖化防止活動支援センターの運営団体が、昨年度から大幅に変更されていることから、ブロック会議などを通じた顔合わせの機会があれば、多様な意見が出てくるのではないか。 |
| 写真 |  |

| | |
|------|---|
| 行事名 | 第2回 九州地方環境パートナーシップオフィス 運営委員会 第2回 九州地方 ESD 活動支援センター 企画運営委員会 |
| 開催日等 | 日 時：令和5年1月17日（火）13:30-16:30 会 場：熊本城ホール B1 会議室（熊本市） ZOOM によるオンライン開催 出席者：14名 |
| 目的 | 令和4年度の運営状況の報告並びに、次期運営計画の策定に向けた協議・助言、および個別事業に対する各委員との連携内容を検討する。 |
| 概要 | <次第> 1. 開会 2. 出席者紹介 3. 令和4年度 EPO 九州運営報告について 4. 令和4年度九州 ESD センター運営報告について 5. その他 |
| 成果 | 出席委員に対して、令和4年度の EPO 業務活動状況を報告し、次年度活動に関する助言をいただいた。 |

| | |
|---------------------|---|
| | <p>昨年度より継続して活動した相談対応や情報発信に基づく SDGs、ESD コンシェルジュ業務について、一層具体化した活動に評価をいただいた。</p> <p>地域課題の解決や地域循環共生圏の構築に向けて、ユース世代や専門家の養成が急務であり、小中高大・地域・学校間の連携等における支援ニーズが、依然高い状況が共有された。</p> <p>上記に加えて ESD の推進においても、幅広い主体の参画が必要であることが委員より栄安され、ネットワーキングを基調とした活動を、次期以降も九州沖縄地域で展開する方針が示された。</p> |
| <p>指摘 検討事項等</p> | <p>●基本業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境パートナーシップの構築について、一年間を通して Web サイトや SNS で広く情報発信を行っていることが見て取れた。運営3カ年をとおして情報発信手法が改善されている。 ・情報の受発信をとおして EPO 九州としての活動が、九州沖縄地域、そして地域外にも波及していることは評価できる。 ・主催事業において審査員対応や、外部講師依頼など委員との連携が行われている。 ・高等教育においては、環境行政カリキュラムなどで一定の専門性が求められるため、EPO 九州の取り組みから大学教育に参画していただきたい。報告の各所にあるように、具体的な大学や高校の名称が出てきているのは良い傾向である。 ・高大連携のニーズは依然高いままであるが、充分には行き届いていない印象があり、この点で EPO 九州にはコンシェルジュ機能を発揮してほしい。 <p>●地域循環共生圏構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・竹の利活用については、各地で荒廃竹林が課題となっていることから、EPO 九州の特性を生かした活動ができるのではないかな。 ・竹林の荒廃に対するアプローチは次々に生まれるが、産業化できないことが多い。一方メンマの生産や肥料としての活用など、多様性が生まれてきていると感じる。 ・パートナーシップ基盤教科事業については、エコテクノ 2022 のセミナーを機に長崎県内の連携の実例が出ているなど、機能している。 ・地域循環共生圏関連業務を始め、エリアを超えたオンラインでのセミナー企画が多数行われているが、対面参加や内容のアーカイブ化のニーズにも対応していただきたい。 ・今までの個別の主体から、地域全体、あるいは環境保全分野に対して興味関心を持つ金融機関が増加している。そのような潮流の中で EPO 九州の取り組みがじわじわと効果を上げているのではないかな。 ・プラットフォーム事業では活動の場と、活動の主体が非常に重要である。各個の圏域で循環や共生に関する要素を取り出し、一般化することによって他の地域にも知見を結びつけるような活動になるのではないかな。 ・九州経済連合会と会員企業による投融資方針に関する議論にぜひ環境省も加わっていただき、ESG 投融資を進めていく活動体制が創れないかな。九州地方環境事務所と九経連では、包括連携協定なども結んでおり、地域循環共生圏の実現に向けて EPO 九州とも連携していきたい。 <p>●ESD 支援</p> |

- ・小中高までの連携はなされていても、大学につながる高大連携は弱いと感じる。大学生になっても地域に関心を持つユースとして活動する母数をいかに増やしネットワークするかが重要である。
 - ・モデル形成事業においては九州センターが相談役として機能し、ゼロからのプラットフォームづくりについて助言をいただいた。具体的な言葉として方向性のヒントを示したことが大きいと感じる。
 - ・モデル形成事業だけでは解決が難しい課題であっても、地域のステークホルダーを拡大するヒントを九州 ESD センターが提供したことで、有効なステークホルダーミーティング手法を探ることができた。
 - ・沖縄県での ESD に関する知見の継承を行うための活動として、貴重な対話のきっかけづくりとしてモデル形成事業が機能した。次の展開につながる仕組みづくりを行いたい。
 - ・年度当初は ESD と SDGs におけるコンシェルジュ機能の相違点が不明瞭だったが、活動の内容を見ると ESD センターの役割がより明確になったと感じる。課題解決までのプロセスを紹介ツールとして用意することで、他の団体にとっても相談に向けた雰囲気づくりができるのではないかな。
 - ・SDGs が先行したことによって、ESD について専門的な概念にシフトしたような雰囲気があるが、人づくりという言葉に置き換えれば、すべての人が参画できるものとして捉えられる。
 - ・コロナウイルスの拡大で持続不可能な状況が顕在化し、次世代への期待値が上昇した。ユース世代に生きる力を提供する人づくりが必要になる。
 - ・教育という言葉のイメージは、教育する内容そのもの、コンテンツとして見なされるが、コンピテンシーや資質能力の提供は学校だけではなく、様々な人が参加できるものであり、むしろその方が重要である。
 - ・「ESD 実践者の良き相談相手」という役割を、今後も継続していただき、中立的な立場での助言をいただきたい。伴走型のメニューを今後も持ち続けてほしい。
 - ・人材育成の観点では学習者を増やすだけではなく、専門家の養成という分野もある。運営委員のような専門家を増やすことが ESD の充実にも繋がるため、こうした活動にも取り組んでいただきたい。
- 3カ年の運営全体について
- ・設立当初から考えればネットワークの密度が上がり、網の目の細かい活動となった。複雑ながら、活動に立体感が生まれたことで新しい成果が次々に出てくるのではないかなと思う。
 - ・成果をもとに次の活動の種を播いていくような活動になれば、さらに存在感が高まるのではないかな。
 - ・年間の運営委員会の出席だけではなかなか活動の現状がつかみにくいため、委員に対して現場での参加を呼びかけるなどの工夫が有効だ
 - ・コロナ禍の中でも活動支援を続けたことに勝ちがあり、オンラインの運営技術を高めることができたのではないかな。その一方、対面開催の価値や実体験の価値の重要性についての議論が深まったのではないかな。
 - ・先進的な事例はたくさんあり、沖縄県は「隣県」がないため EPO 九州が発信する情報が非常に参考になっている。
 - ・環境問題や持続可能な社会づくりでは様々な主体が自らのメリットを優先的に考えるため、フラットな立場からの助言が重要であることから支援者の役割が大きい。

| | |
|----|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> 九州沖縄地域の環境保全等に関する情報を集約し、蓄積された情報を適宜必要なところに届ける体制強化を図っていただきたい。 市民や行政のパートナーシップづくりの拠点としてEPO九州が設立されたが、長期にわたって具体的な活動のあり方やニーズを探る期間があった。次第にスタッフの経験と熱意で、地域全体の人的なプラットフォームが構築され、様々なプラットフォームが創出されている。ESDセンターの運営を含め、EPO九州に対する期待値は上がっており、そのためには運営委員のさらなる支援や助言が必要だ。 |
| 写真 |  |

ウ、各運営委員と連携した取り組みの推進

●事業連携

| | |
|------|---|
| 案件名 | 令和4年度 地域ぐるみのESD活動モデル事例形成支援プロジェクト |
| 実施日等 | 通年を通じた活動 |
| 内容 | <ul style="list-style-type: none"> ●下記委員の団体をパートナー団体としたESDモデル形成活動 ・桑野委員「地域環境ネットワーク」 ・浜本委員「NPO 法人くすの木自然館」 ・岸信委員「海洋教育推進ネットワーク」 |

| | |
|------|---------------------------------------|
| 案件名 | 地域ESD拠点登録 |
| 実施日等 | 令和4年6月21日(火) |
| 内容 | 大島委員が理事を務める「一般社団法人やんばるビジョン」の地域ESD拠点登録 |

| | |
|------|--|
| 案件名 | ユネスコスクール九州・沖縄ブロック大会 |
| 実施日等 | 令和4年10月23日(日) |
| 内容 | 石丸委員長及び福岡教育大学が実施する表記の催しについて九州ESDセンターから後援 |

| | |
|------|--|
| 案件名 | 福岡教育大学セミナー 授業支援 |
| 実施日等 | 令和4年8月2日(火) |
| 内容 | 石丸委員長が副学長を務める福岡教育大学において、ESD講座のまとめに関するコーディネーションを実施。 |

| | |
|------|----------------------------|
| 案件名 | 地域循環共生圏プラットフォーム事業成果共有会 |
| 実施日等 | 令和5年3月9日(木) |
| 内容 | 石丸委員長と北海道のプラットフォーム活動団体の接続。 |

●講師登壇

| | |
|------|---|
| 案件名 | 脱炭素×地域金融セミナー ローカルESGが切り拓く未来 |
| 実施日等 | 令和4年7月7日(木) |
| 内容 | 山口委員によるパートナーシップ基盤強化事業セミナーへの講師登壇及びパネルディスカッションでのファシリテーション |

| | |
|------|---------------------------------------|
| 案件名 | 2023年度 地球環境基金助成金説明会 沖縄会場 |
| 実施日等 | 令和4年11月9日(水) |
| 内容 | 岸信委員による地域海洋教育ネットワークに関する情報提供及び意見交換への参加 |

| | |
|------|--|
| 案件名 | 令和4年度 地域ESD学びあいフォーラム |
| 実施日等 | 令和5年1月25日(水) |
| 内容 | <p>●ESDモデル事例形成支援プロジェクトの活動紹介として登壇</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桑野委員「地域環境ネットワーク」 ・浜本委員「NPO法人くすの木自然館」 ・岸信委員「海洋教育推進ネットワーク」 |

●専門的知見の提供

| | |
|------|---------------------------------|
| 案件名 | 地球温暖化防止活動推進センター 第2回九州ブロック会議 |
| 実施日等 | 令和5年1月26日(木) |
| 内容 | 橋本委員との各県地球温暖化防止活動推進センターに関する意見交換 |

| | |
|------|----------------------------------|
| 案件名 | 地球環境基金 地域課題の解決に向けたステークホルダーミーティング |
| 実施日等 | 令和5年3月20日(月) 14:30-17:30 |
| 内容 | 浜本委員による地域課題解決に取り組む団体の活動紹介 |

●情報発信協力

| | |
|------|----------------------|
| 案件名 | 長崎大学経済学部 連続公開講座の情報発信 |
| 実施日等 | 令和4年11月17日(木) |
| 内容 | 山口委員による長崎大学主催事業の発信依頼 |

| | |
|------|----------------------------|
| 案件名 | 北九州市 エコライフステージ2022の情報発信 |
| 実施日等 | 令和4年10月20日(木) |
| 内容 | 北九州市環境局稲田氏による北九州市主催事業の発信依頼 |

| | |
|------|-----------------------------------|
| 案件名 | 「おおいた地球温暖化防止推進大会2022」の情報発信 |
| 実施日等 | 令和4年12月24日(土) |
| 内容 | 桑野委員による大分県温暖化防止活動推進センター主催事業の発信依頼。 |

2. 基本業務

(1) 横断的な情報の収集及び発信

業務目標

- ウェブサイトにSDGsコンテンツページを新設し、EPO九州がローカルSDGs（地域循環共生圏）の取組推進に関する相談対応や助言等を実施していることを対外的にアピールするとともに、同取組推進に資する情報を一元的に掲載・発信することで、地域におけるローカルSDGs実現に向けた取組を加速化させる。
- 地域ぐるみのESDを推進する、多様なESD実践主体が連携、協働する契機となる情報の収集と発信を行う。

ア、EPO九州ホームページにおけるSDGsコンテンツページの作成

EPO九州ホームページにおいて、地域循環共生圏関係施策、環境保全団体への支援情報、活動ツール等の情報を広く収集し随時掲載・更新した。

またFacebook、Instagramといった、ソーシャルネットワーキングサービスの有効活用により、ウェブサイトへの誘導や、フォロワーとしての関係者の拡大を行った。

SDGsコンテンツページにおいては、これまでの業務の中で連携・協力体制を構築した団体等の情報を掲載したほか、相談対応を端緒に講師対応等を行った支援活動を事例掲載した。



イ、Web サイト・SNS・メールマガジン等を通じた情報発信

- ・プッシュチャンネルとしてのメルマガの発行（年間28回）

九州沖縄地域の環境保全、環境行政、環境教育に関する情報を、一元的に収集、発信するツールとしてメールマガジンを月間2回発行し、適宜臨時号を発行。鮮度の高い情報発信を行った。

また、トピックとして地域循環共生圏の実現に向けた取組、ESD推進に関する情報を重点的に紹介し、関係者へ発信、支援を行った。

地域性の高い情報として、九州沖縄各県の環境行政情報、また選定されているSDGs未来都市の活動について情報を広く収集し、トピックとして発信した。

関係主体より情報発信依頼を受け、ウェブ掲載・SNS 発信と並行したメールマガジン発信を行った。

ウェブサイト・メルマガによる発信状況

| 四半期単位 | 第1 四半期 | 第2 四半期 | 第3 四半期 | 第4 四半期 | 年間 |
|------------------------|------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| EPO 九州 Web 投稿数 | 136 | 149 | 144 | 118 | 547 |
| EPO 九州 Web サイト閲覧数 | 803,242 | 765,342 | 589,924 | 705,571 | 2,864,079 |
| ESD センター Web 投稿数 | 30 | 58 | 52 | 74 | 214 |
| ESD センター Web サイト閲覧数 | 1,687 | 2,528 | 1,962 | 2,719 | 8,896 |
| メルマガ発行数 | 6 | 7 | 8 | 8 | 29 |
| メルマガ登録者数 | 705 名（令和4年3月31日） | | | | |

SNS の活用状況

| 四半期単位 | 第1 四半期 | 第2 四半期 | 第3 四半期 | 第4 四半期 | 年間 |
|--|-----------|-----------|-----------|-----------|-----|
| Facebook 投稿数 フォロワー 592 年間リーチ 4,173 人 | 139 | 169 | 171 | 154 | 633 |
| Instagram 投稿数 フォロワー 199 年間リーチ 21,832 人 | 114 | 158 | 162 | 145 | 579 |



ウ、ニュースレターの作成

・SDGs/ESD コンシェルジュとしての相談対応、地域ぐるみのESD活動の推進、地球循環共生圏プラットフォームの形成、地球温暖化防止活動推進センターとの連携、地域脱炭素創生室の取組等、具体的な取組を分かりやすく整理した紙面を充実させた。

発行概要：A4判 16ページ、多色刷り

・EPO九州SDGs啓発リーフレットの改訂

SDGs、及び地域循環共生圏の取組みを掲載するリーフレットについて、最新のSDGs未来都市選定状況を反映した新版を作成し、配布、活用した。

発行概要：A4判巻三つ折

| | |
|------------|--|
| ニュースレターの発送 | 748件 (vol.18) ※主な送付先：九州・沖縄管内の行政組織、地域循環共生圏に関連する団体、NPO・企業等団体、環境学習拠点、教育委員会等、地域ESD活動推進拠点、ビジターセンター、EPO事業関係団体等 |
| 成果、特記事項 | 昨年度の活動状況をまとめたニュースレターを九州・沖縄地域の行政組織や、EPO事業に関連する団体へ送付を行い、SDGsコンシェルジュ活動、九州・沖縄におけるESD推進ビジョン、地域循環共生圏にかんする取組等により、ローカルSDGsの関心を喚起した。 各所への送付をきっかけに自治体からの相談案件を獲得し、ネットワークの拡大ツールとして広く活用した。 |

情報発信の強化を図ることを目的に、過年度事業関係者へのインタビューを行い、独自コンテンツを創出した。

また、インタビュー結果をウェブサイトやニュースレター等に掲載し、EPO九州のネットワークを活用して発信を行った。

| | インタビュー等実施状況 | |
|------------------|-----------------------|---|
| インタビューによるコンテンツ創出 | 有識者による巻頭言 ※ニュースレター | 全国地球温暖化防止活動推進センター 事務局長 平田 裕之 氏 |
| | 地域循環共生圏推進 過年度事業実践者 | 北九州環境ビジネス推進会 (KICS) 代表幹事 北九州循環経済ビジョン推進協議会 副会長 松尾 康志 氏 |
| | 地域ESD推進 | NPO法人 くすの木自然館 代表理事 浜本 麦 氏 |

エ、地域メディアの企画支援・監修対応

熊本日日新聞社の80周年プロジェクトへの監修・助言の依頼を受け、月1回の朝刊特集において、地域密着目線でのテーマの提案および専門家の紹介、ローカルメディア「くまにちすばいす」のSDGs特集記事における監修、アワード等個別企画へ委員等の推薦、他地域事例の紹介等を実施した。

また、生活共同組合連合会コープ九州の会員誌面に、SDGsをテーマとした全12回の年間連載により、SDGsに関連する事柄やEPO九州のコンテンツを発信した。

- ・「くまにち SDGs アクションプロジェクト」年間の朝刊特集の監修（毎月）

熊本の歴史・自然・暮らしという身近なテーマをSDGs視点で再発見していく企画において、フェアトレード・公共交通・イ草（農業）・有明海保全・江津湖と生態系保全・ジェンダー・みなまとESD・脱炭素広域連携、地域の食文化などをテーマに、地域の団体や学校、専門家を紹介する記事として発信された。

※朝刊紙面（約24万部）と熊日電子版を発行

- ・ローカルメディア「くまにちすばいす」SDGs特集記事の監修（7/8発行号）

SDGsの視点を通して、親子で一緒に買い物、調理、食事を体験する企画において、身近な地域の中でも受け継がれている暮らしの知恵や工夫の再発見、家庭で実践できる持続可能なライフスタイルのヒントとなるよう監修を実施した。

※熊本市を中心に31部戸別配布

- ・「くまもとSDGsアワード2022」の選考への協力

熊本日日新聞社、県内の行政や経済団体等により今年度創設されたアワードの選考への協力を行った。



- ・コープ九州会員誌「クリム」SDGsコラムページの年間連載（毎月）

九州沖縄地域の8つの生協連合、COOP九州が発行する会員誌「クリム」において、防災・海洋環境・オンライン・ESD・キャリア教育・気候変動・放置竹林・ジェンダー・生協など、各号にてSDGsを親しみやすく紹介を行った。

※月刊3万部発行の有料会員誌



■EPO九州名義後援

| 開催日 | 行事名 | 県 | 会場 | 主催 |
|-------------------|------------------------|-----|-----------------|----------------|
| 10月15日- 10月16日 | ながさきエコライフ・フェスタ 2022 | 長崎県 | 魚の町公園 中島川公園他 | ながさきエコライフ実行委員会 |

(2) SDGs・ESD コンシェルジュ機能の強化

業務目標

●SDGs/ESD の具体的な取り組み方に悩む主体や取組上の課題を抱えている主体からの相談に対して基礎的な知識のインプット、活用できる支援ツールや資料の提供、人材の紹介など全般的助言により相談者の課題を解消し、地域脱炭素やローカル SDGs 達成に向けて取り組むアクターを増加させる。

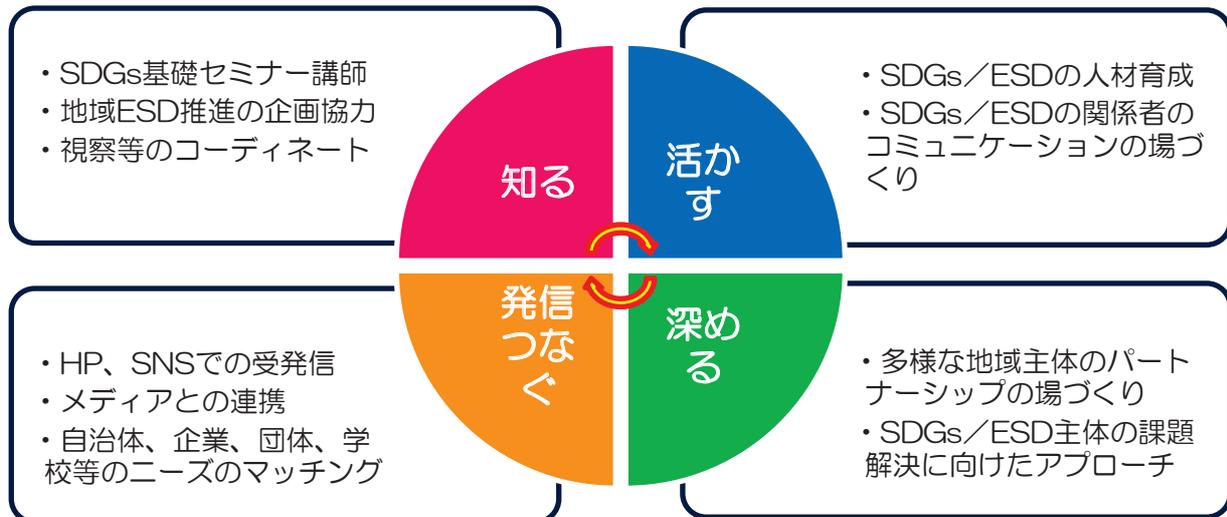
コンシェルジュ (conierge) : 顧客の要望に答え、サービス・情報を提供・提案する人材・組織

SDGs/ESD の具体的な取組の方法や課題について、自治体・企業・非営利団体の研修、中学校・高等学校のキャリア教育等、九州・沖縄の多様な主体から相談に対して、

ワンストップのSDGs/ESD コンシェルジュとして、課題の解消に向けての意見交換および多様な分野・地域のネットワークによる活動協力、人材育成に関するプログラムへの講師対応および専門家の紹介、情報の提供および発信協力等、地域脱炭素やローカル SDGs 達成に向けての取り組むアクターの増加に寄与できるよう、年間を通じた対応を強化した。

またコンシェルジュ機能における相談対応にて、地域脱炭素を含むローカル SDGs 実現に向けた取り組みの推進に関する課題やニーズの把握を行い業務に反映した。

ア、コンシェルジュ活動のステップ



【成果】

- ・地域循環共生圏、地域脱炭素の推進に関する情報を、環境省や独自の情報収集手法から蓄積、キャッチし、マッチングや相談対応を強化した。
- ・幅広い情報収集を基盤として、地域脱炭素の推進、環境教育に有効活用できるツールをストックし、相談者の意向に沿った提案を行った。
- ・環境カウンセラー、環境活動指導者、温暖化防止センターなど、地域アクターと連携し、地域ネットワークを活用した相談対応を行った。
- ・九州・沖縄地域のESDビジョンを活用しながら、地域特性に応じたESD資源、または課題を分析し、提案や相談対応を実施した。
- ・実際に行った支援対象についてヒアリングを行い、コンシェルジュ機能、各支援を行った事例を、新たな優良事例として具体的に提示した。

イ、各種情報の照会・相談への対応と対話の場づくり

EPO 九州への相談内容等に応じて、対話の場づくりに努めるとともに、相談内容に応じて、EPO 九州・九州 ESD センターでの対応を検討し、提案等を行った。

※ESD 活動支援に関する相談対応は別項に記載

■環境パートナーシップに関する相談・対話の場対応

| | | | |
|------|--|-------|----------|
| 相談者 | 熊本日新聞社 | | |
| 相談概要 | 活動協力依頼 | 初回相談日 | 令和4年4月5日 |
| 相談内容 | <p>昨年度より取組まれた SDGs プロジェクトの本格始動にあたり月1回の特集記事ならびにプロジェクト全般についてのアドバイザー依頼を行いたい</p> <p>■対応：新聞社と協議の上、毎月の朝刊特集、ローカルメディア SDGs 特集記事監修を行ったほか、「くまもと SDGs アワード 2022」の選考への協力等を行った。</p> | | |

| | | | |
|------|---|-------|----------|
| 相談者 | コープ九州 クリム編集部 | | |
| 相談概要 | 情報提供依頼 | 初回相談日 | 令和4年4月5日 |
| 相談内容 | <p>九州・沖縄地域で市民活動や協働に取り組む主体を取り上げる、「九州・沖縄の元気人」のコーナーをクリムにて連載している。熊本県地域の主体への取材を検討しており、取材先をご紹介いただきたい。</p> <p>■対応：人吉地域の活動者を取材先として紹介し取材及び掲載に繋がった。</p> | | |

| | | | |
|------|--|-------|----------|
| 相談者 | 宮崎県内の公益財団法人 | | |
| 相談概要 | 情報提供依頼 | 初回相談日 | 令和4年4月6日 |
| 相談内容 | <p>外来生物として問題が喚起されているアメリカザリガニについて飼育展示を行っている。これまで譲渡を行う教室事業も行っているが、緊急対策外来種として環境省による譲渡規制や飼育規制は行われる予定があるか。</p> <p>■対応：環境省が公表した手引き、動画コンテンツについて紹介し、継続的対応を行った。</p> | | |

| | | | |
|------|---|-------|-----------|
| 相談者 | 民間保険会社 壱岐事務所 | | |
| 相談概要 | 情報提供依頼 | 初回相談日 | 令和4年4月20日 |
| 相談内容 | <p>本社から送られてきた EPO 九州発行冊子を受領している。壱岐市内での SDGs 啓発のため、EPO 九州が発行する SDGs パンフレットを活用したいので送付いただきたい。</p> <p>■対応：壱岐営業オフィスへ資料を送付。</p> | | |

| | | | |
|------|--|-------|-----------|
| 相談者 | 雲仙諏訪の池ビジターセンター（一般社団法人雲仙観光局） | | |
| 相談概要 | 活動協力依頼 | 初回相談日 | 令和4年4月27日 |
| 相談内容 | <p>雲仙市教育委員会が開催を検討している、南串山図書館でのSDGsパネル展について、開催内容への助言や、パネル展示協力をいただきたい。</p> <p>■対応：作成パネル内容を提示し、展示検討を依頼。</p> | | |

| | | | |
|------|--|-------|-----------|
| 相談者 | 雲仙諏訪の池ビジターセンター（一般社団法人雲仙観光局） | | |
| 相談概要 | 情報提供依頼 | 初回相談日 | 令和4年4月27日 |
| 相談内容 | <p>職員研修の機会を現在検討しておりガイドプログラムを提供しているような施設をご紹介いただきたい。ビジターセンターでは現在、運営業務の中でEバイクツアーなど、有償のコンテンツ作りに苦心しており、この点で参考になる施設へ訪問したい。</p> <p>■対応：先進事例を持つ有効な視察先について情報提供。</p> | | |

| | | | |
|------|---|-------|-----------|
| 相談者 | 佐賀市 | | |
| 相談概要 | 発信の協力 | 初回相談日 | 令和4年5月10日 |
| 相談内容 | <p>佐賀市の取り組みである佐賀市版「木になる紙」の活用と、カーボンオフセットの取り組み開始の告知を頂きたい。</p> <p>■対応：共有された情報について発信。</p> | | |

| | | | |
|------|--|-------|-----------|
| 相談者 | 熊本日日新聞社 すばいす編集部 | | |
| 相談概要 | 活動協力依頼 | 初回相談日 | 令和4年5月13日 |
| 相談内容 | <p>以下のSDGs企画に対する監修および取材協力</p> <p>①巻頭特集「子飼商店街でSDGsのお買い物&料理作り」</p> <p>②1ページ特集「SDGsを考える自由研究」</p> <p>③広告企画：企業のSDGsの取り組みを紹介する記事とのタイアップ広告</p> <p>④「すてきびと」コーナーでの紹介</p> <p>■対応：具体的な企画案に基づき、助言、監修協力を実施。</p> | | |

| | | | |
|------|--|-------|-----------|
| 相談者 | 自治体の土木部署 | | |
| 相談概要 | 発信の協力 | 初回相談日 | 令和4年5月23日 |
| 相談内容 | <p>県庁における職員自主活動グループが主催するSDGsワークショップについて、県の環境教育実践者等に情報発信を行いたい。EPO九州のネットワークから情報共有をいただきたい。</p> <p>■対応：ワークショップの概要についてEPO九州から各所へ発信。</p> | | |

| | | | |
|------|--|-------|-----------|
| 相談者 | 環境コンサルティング企業 | | |
| 相談概要 | 発信の協力 | 初回相談日 | 令和4年5月25日 |
| 相談内容 | <p>環境省生物多様性センターの運営するいきものログ運営事務局を担当。「いきものログ」内で毎年実施している「種名調べ支援」サービスについて、広く一般に周知するため、貴ホームページのほか、SNS、関連ウェブサイト、メールマガジン等に情報を掲載していただきたい。</p> <p>■対応：共有されたサービス情報について各所へ発信。</p> | | |

| | | | |
|------|--|-------|-----------|
| 相談者 | 熊本県立大学総合管理学部総合管理学科 | | |
| 相談概要 | 講師対応依頼 | 初回相談日 | 令和4年5月25日 |
| 相談内容 | <p>JST 共創の場形成支援プログラムに選定され「流域治水を核とした復興を起点とする持続社会」をテーマに、研究機関、金融機関と連携した活動を行っている。その一環として人吉球磨地域の中高生を対象に、地域課題解決のための政策立案をテーマとしたプログラムを実施予定である。プログラムの内容改善や、EPO九州からの講師担当についてご協力頂きたい。</p> <p>■対応：人吉球磨地域のユース企画について、通年で講師対応を実施。</p> | | |

| | | | |
|------|---|-------|-----------|
| 相談者 | 独立行政法人環境再生保全機構 全国ユース環境ネットワーク事務局 | | |
| 相談概要 | 活動協力依頼 | 初回相談日 | 令和4年5月26日 |
| 相談内容 | <p>過年度福岡県で開催したユース環境活動発表に関する交流企画について、感染症拡大の沈静化を見て、九州地域で開催したい。開催に当たり、EPO九州との連携を図りたい。</p> <p>■対応：企画検討を行ったが、中止判断となった。</p> | | |

| | | | |
|------|---|-------|----------|
| 相談者 | クリム編集部 | | |
| 相談概要 | 情報提供依頼 | 初回相談日 | 令和4年6月1日 |
| 相談内容 | <p>生活協同組合会員へ発行するクリム8月号にて、リユースに関する特集を行う。環境に関する概要や、3Rについて話題提供ができる有識者を紹介いただきたい。</p> <p>■対応：九州地域にて循環社会構築を専門分野に持つ有識者を紹介した。</p> | | |

| | | | |
|------|---|-------|----------|
| 相談者 | 大分県内のNPO 法人 | | |
| 相談概要 | 情報提供依頼 | 初回相談日 | 令和4年6月1日 |
| 相談内容 | <p>九州内（大分以外）で、大学期間が行う小学生向けの地球温暖化対策の出前講座で参考事例あれば教えて頂きたい。</p> <p>■対応：具体的な事例について情報を提供。</p> | | |

| | | | |
|------|--|-------|-----------|
| 相談者 | 国立環境研究所気候変動適応センター | | |
| 相談概要 | 意見交換 | 初回相談日 | 令和4年6月14日 |
| 相談内容 | <p>6月23日に気候変動適応センターの来熊に伴い、適応に関する普及啓発の取組等についてEPOスタッフとの意見交換を行いたい。</p> <p>■対応：九州地方環境事務所にて意見交換を実施。</p> | | |

| | | | |
|------|---|-------|-----------|
| 相談者 | みやざきSDGsプラットフォーム | | |
| 相談概要 | 情報提供依頼 | 初回相談日 | 令和4年6月14日 |
| 相談内容 | <p>宮崎大学、都農町、トヨタ自動車販売、病院で連携して進めているプロジェクトで、小型のEV自動車を使って、普通自動車が通れないような細い道の地域の訪問診療を行う実証実験をしている。その取組で、脱炭素（ゼロカーボン）にどれくらい寄与したかを数値化（見える化）したい。</p> <p>■対応：脱炭素に関する測定ツールを紹介。</p> | | |

| | | | |
|------|--|-------|-----------|
| 相談者 | 食品卸・製造事業者 | | |
| 相談概要 | 意見交換 | 初回相談日 | 令和4年6月21日 |
| 相談内容 | <p>経営陣は、SDGsの取組に熱心であり、特に食品を扱っていることから、プラスチック問題などに関心が高い。自然由来の材料を使った「竹ストロー」について環境問題の啓発も含めて販売展開をしているがなかなか受け入れられない。販路開拓について助言いただきたい。</p> <p>■対応：来所の上、製品について意見交換を実施。</p> | | |

| | | | |
|------|---|-------|-----------|
| 相談者 | 福岡県内のエネルギー関連事業者 | | |
| 相談概要 | 情報提供依頼 | 初回相談日 | 令和4年6月23日 |
| 相談内容 | <p>これまで資源エネルギー庁のマイクログリッドに関する補助金を受けていたが、今回不採択となったので新たな補助金の情報を収集したい。特に再生可能エネルギー分野・防災拠点に関する情報提供をいただきたい。</p> <p>■対応：意見交換を行いながら、近年の環境省政策等を交えて情報提供。</p> | | |

| | | | |
|------|---|-------|-----------|
| 相談者 | 独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金部 地球環境基金課 | | |
| 相談概要 | 活動協力依頼 | 初回相談日 | 令和4年6月28日 |
| 相談内容 | <p>地球環境基金では、感染症の問題から停滞している海外事業の代替として、国内研修事業を展開しており、これまで北海道で実施。四国地方では感染症の拡大から注視判断を行った経緯がある。今年度活動について九州開催を予定しており、EPO九州との連携を図りたい。</p> <p>■対応：熊本県内をフィールドとした研修の実施について具体的な検討を行い、地域循環共生圏や熊本地震からの復興、ツーリズム等をテーマ設定して開催した。</p> | | |

| | | | |
|------------|---|-------|-----------|
| 相談者 | 環境省雲仙自然保護官事務所 | | |
| 相談概要 | 講師対応依頼 | 初回相談日 | 令和4年7月29日 |
| 相談内容 | <p>雲仙の温泉街の観光業者を対象にSDGsに関する研修を実施したい。繁忙期の秋季を避け、4回ほどに分割して平日の実施を検討している。経営者向けには別途開催し、一回90分程度を想定。可能な限り平易な内容で基礎事項をインプットするものを検討している。</p> <p>■対応：令和4年12月14日、雲仙お山の情報館別館にて研修対応。</p> | | |
| 対応概要 写真 | <p>目的：SDGsに関する基礎的事項や、関連事例を通して知見を高め新たな視座を得る。 日時：令和4年12月14日（水） 11:00-12:30 / 13:30-15:00（2回開催） 会場：雲仙お山の情報館 別館 対象：雲仙地域 観光事業者、NPO、パークボランティア等11名 プログラム： 1. SDGsについての説明（15分） 2. 各分野での実践状況（15分） 3. 現代の社会像と観光業について（5分） 4. ThESDGsアクションカードゲームクロスの体験（25分） 5. 意見交換または質疑など（最大30分）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> | | |

| | | | |
|------|--|-------|----------|
| 相談者 | 熊本県内の一般社団法人 | | |
| 相談概要 | 講師対応依頼 | 初回相談日 | 令和4年9月8日 |
| 相談内容 | <p>熊本県立大学から2名の学生をインターンシップとして受け入れ。研修プログラムの中でEPO九州からSDGsに関する講義を担当いただきたい。</p> <p>■対応：学生の関心や学部などのテーマ性を反映した講師対応を実施。</p> | | |

| | | | |
|------|---|-------|-----------|
| 相談者 | 九州グリーン購入ネットワーク | | |
| 相談概要 | 講師対応依頼 | 初回相談日 | 令和4年9月16日 |
| 相談内容 | <p>事務局、会員情報交換をオンラインで行うにあたり、話題提供いただきたい。EPO九州の活動やSDGsについての考え方をお話いただきたい。</p> <p>■対応：話題提供に対応。</p> | | |

| | | | |
|------|--|-------|-----------|
| 相談者 | 保険事業者 | | |
| 相談概要 | 活動協力依頼 | 初回相談日 | 令和4年9月27日 |
| 相談内容 | <p>地域助成事業について助成先審査をお願いしたい。</p> <p>■対応：審査会に出席し、助成先についての審査に対応した。</p> | | |

| | | | |
|------|---|-------|-----------|
| 相談者 | 特定非営利活動法人 地球緑化センター | | |
| 相談概要 | 発信の協力 | 初回相談日 | 令和4年9月29日 |
| 相談内容 | <p>今年度、第30期「緑のふるさと協力隊」の募集を行うに当たり、福岡県で募集説明会を開催する。本説明会の発信に協力いただき、並びに募集についても広く発信にご協力いただきたい。</p> <p>■対応：EPO九州のWebサイト、SNS、メールマガジン等で周知協力。</p> | | |

| | | | |
|------|--|-------|-----------|
| 相談者 | 熊本県環境政策部 | | |
| 相談概要 | 発信の協力 | 初回相談日 | 令和4年10月7日 |
| 相談内容 | <p>自然保護行政の推進を目的とした熊本県自然環境講座の開催を予定している。生物多様性保全、自然保護意識の普及啓発に向け、県民に向けた発信依頼を行いたい。</p> <p>■対応：EPO九州のWebサイト、SNS、メールマガジン等で周知協力。</p> | | |

| | | | |
|------|---|-------|-----------|
| 相談者 | 熊本県内の一般社団法人 | | |
| 相談概要 | 情報提供依頼 | 初回相談日 | 令和4年10月7日 |
| 相談内容 | <p>地域の産業者に向けた、観光側面からのSDGs普及啓発資料を探している。総論的な話題ではなく、身近な話題、職業との繋がりを意識した参考資料があれば、紹介をいただきたい。</p> <p>■対応：情報収集した関係する資料、教材情報について選定し紹介した。</p> | | |

| | | | |
|------|--|-------|------------|
| 相談者 | 福岡県内の教育・研究機関 | | |
| 相談概要 | 意見交換 | 初回相談日 | 令和4年10月12日 |
| 相談内容 | <p>「持続可能な食の消費」をテーマに研究に取り組んでおり、現在は、環境負荷が大きい食肉に代わる「食肉代替食品」の社会実装に関心を持っている。そこで、環境問題への関心の深い消費者（市民団体・NPO等）の活動状況等について伺いたい。</p> <p>■対応：来所、オンライン打ち合わせ等、相談者との情報提供や意見交換の場づくりについて提案した。</p> | | |

| | | | |
|------|--|-------|------------|
| 相談者 | 公益社団法人日本フィランソロピー協会 | | |
| 相談概要 | 発信の協力 | 初回相談日 | 令和4年10月12日 |
| 相談内容 | <p>新規で制度が立ち上がった「サンライズ財団環境助成金」について、九州沖縄地域への発信を依頼したい。大阪にある商社が昨年設立した財団による環境助成で、情報発信において協力を行っていただきたい。</p> <p>■対応：EPO九州のWebサイト、SNS、メールマガジン等で周知協力。</p> | | |

| | | | |
|------|--|-------|------------|
| 相談者 | 熊本県内の一般社団法人 | | |
| 相談概要 | 発信の協力 | 初回相談日 | 令和4年10月19日 |
| 相談内容 | <p>熊本県むらづくり課と（一社）全国農協観光協会が連携し、熊本県「農泊ターゲット別 誘客研修会」開催する。「熊本の農泊」を推進するため、熊本県内で活動している農泊推進協議会・農林漁家民宿経営者・自治体・観光関係団体などを対象に、農泊のニーズなどを学ぶ研修を実施する予定である。九州、沖縄地域の関係者に広く発信協力をいただきたい。</p> <p>■対応：EPO九州のWebサイト、SNS、メールマガジン等で周知協力。</p> | | |

| | | | |
|------|---|-------|------------|
| 相談者 | 福岡県内の教育・研究機関 | | |
| 相談概要 | 意見交換 | 初回相談日 | 令和4年10月21日 |
| 相談内容 | <p>主に「持続可能な食の消費」をテーマに研究に取り組んでおり、現在は、環境負荷が大きい食肉に代わる「食肉代替食品（代替肉、培養肉）」がどのように社会に受容されていくかという点に関心を持ち研究を行っている。研究の一環として、環境問題への関心の深い消費者（市民団体・NPO等）の方が「食肉代替食品」にどのような印象を持っているのかを調査したいと考えており、九州の「食」や「農業」に関連した団体やNPO、その活動状況等について伺いたい。</p> <p>■対応：EPO九州による地域循環共生圏への支援事例等を通じて、食品分野について活動している事例や主体について紹介した。</p> | | |

| | | | |
|------|---|-------|-----------|
| 相談者 | 福岡県内の公益財団法人 | | |
| 相談概要 | 発信の協力 | 初回相談日 | 令和4年11月4日 |
| 相談内容 | <p>財団では、九州の豊かな自然環境をみらいにつなげることで、そして、子どもたちの体験活動を通じた健やかな成長を目的として、九州各地の諸団体を取り組む「子どもたちの自然を大切に作る心を育む活動」への『助成事業』を2021年度より実施している。現在、2023年度の団体募集をしており、多くの団体様に当財団の助成事業を認知いただきたい。</p> <p>■対応：EPO九州のWebサイト、SNS、メールマガジン等で周知協力。</p> | | |

| | | | |
|------|--|-------|-----------|
| 相談者 | 大分県内の野外教育施設 | | |
| 相談概要 | 発信の協力 | 初回相談日 | 令和4年11月5日 |
| 相談内容 | <p>日本自然保護協会が実施している全国砂浜ムーブメント2022のうち、杵築市住吉浜で「砂浜アクティビスト講座」を開催する。当団体は共催者として関わっており、本講座について、広く情報発信に協力いただきたい。</p> <p>■対応：EPO九州のWebサイト、SNS、メールマガジン等で周知協力。</p> | | |

| | | | |
|------|---|-------|------------|
| 相談者 | 長崎県内の教育・研究機関 | | |
| 相談概要 | 発信の協力 | 初回相談日 | 令和4年11月17日 |
| 相談内容 | <p>大学の全5回の公開講座の周知依頼。社会課題解決に資する事業を展開している企業経営者のゲストを参集し、SDGs経営やエシカル消費などを目線で語る内容を予定しており、広く情報発信に協力いただきたい。</p> <p>■対応：EPO九州のWebサイト、SNS、メールマガジン等で周知協力。</p> | | |

| | | | |
|------|--|-------|-----------|
| 相談者 | 公益財団法人日本自然保護協会 1000里地調査事務局 | | |
| 相談概要 | 発信の協力 | 初回相談日 | 令和4年12月1日 |
| 相談内容 | <p>「2022年度モニ1000里地調査全国講習/交流会」の周知協力を依頼したい。環境省の事業「モニタリングサイト1000」里地調査の調査員を中心に、里山調査団体の多くが抱える「モチベーション向上」と「仲間づくり」に焦点を当て、学び合える講習会として設定されている。</p> <p>■対応：EPO九州のWebサイト、SNS、メールマガジン等で周知協力。</p> | | |

| | | | |
|------|--|-------|-----------|
| 相談者 | 佐賀市 | | |
| 相談概要 | 発信の協力 | 初回相談日 | 令和4年12月5日 |
| 相談内容 | <p>佐賀市で長期にわたり取り組んでいる「木になる紙」によるカーボンオフセット事業が第23回グリーン購入大賞「大賞」及び「農林水産大臣賞」を受賞したため告知協力を依頼したい。</p> <p>■対応：EPO九州のWebサイト、SNS、メールマガジン等で周知協力。</p> | | |

| | | | |
|------|--|-------|-----------|
| 相談者 | 鹿児島県内の一般社団法人 | | |
| 相談概要 | 意見交換 | 初回相談日 | 令和4年12月7日 |
| 相談内容 | <p>地球温暖化防止に関する計画策定にあたり、「脱炭素ライフへの転換環境教育・環境学習の促進」や、SDGsに向けての法律改正、鹿児島県等の環境学習のトピックス、課題について伺いたい。</p> <p>■対応：相談者とオンラインでの意見交換を実施し、ESDやSDGs達成に向けた。</p> | | |

| | | | |
|------|---|-------|-----------|
| 相談者 | 熊本県環境政策部 | | |
| 相談概要 | 発信の協力 | 初回相談日 | 令和4年12月8日 |
| 相談内容 | <p>今年度「令和4年度ふるさと熊本の樹木出前講座」を開催。市民向けに広く周知するため、EPO九州に情報発信依頼を行いたい。</p> <p>■対応：EPO九州のWebサイト、SNS、メールマガジン等で周知協力。</p> | | |

| | | | |
|------|--|-------|------------|
| 相談者 | JICA九州 | | |
| 相談概要 | 意見交換 | 初回相談日 | 令和4年12月22日 |
| 相談内容 | <p>JICA九州所属で熊本県立大学の国際教育交流センターに勤務。来年9月ごろ県立大の学生がインドネシアに渡り、JICA隊員として環境教育分野で活動を開始する。環境教育に関する学習の場があれば参加させたい。（インドネシア環境省に配属予定）</p> <p>■対応：EPO九州、九州ESDセンター主催事業等を案内。環境保全や循環社会に関する知見を提供した。</p> | | |

| | | | |
|------|---|-------|------------|
| 相談者 | ウェブ関連サービス企業 | | |
| 相談概要 | 意見交換 | 初回相談日 | 令和4年12月24日 |
| 相談内容 | <p>小中学校生向けに、ウェブアプリを活用したSDGsの普及啓発ツールの開発を進めている。情報交換をお願いしたい。</p> <p>ウェブベースのSDGs地域学習サービスの立ち上げ準備をしており、学校現場で使ってもらうことを想定している。可能なら連携できる学校などの紹介をいただきたい。</p> <p>■対応：相談者来所の上、近年の学校教育の潮流やSDGsの実装について、意見交換を実施した。</p> | | |

| | | | |
|------|--|-------|-----------|
| 相談者 | 熊本県内の一般社団法人 | | |
| 相談概要 | 講師対応依頼 | 初回相談日 | 令和5年1月13日 |
| 相談内容 | <p>南島原における農村ツーリズムの企画検討にあたり、SDGsの考え方活用を行っている。この度、観光協会関係者の研修講師を依頼したい。</p> <p>■対応：令和5年1月20日、講師対応を行った。</p> | | |

| | | | |
|------|--|-------|-----------|
| 相談者 | 一般社団法人アイオーイー | | |
| 相談概要 | 講師対応依頼 | 初回相談日 | 令和5年2月16日 |
| 相談内容 | <p>くまもと県民交流館パレアのNPOボラティア支援センターにて、パレアフェスタを開催する。については、今後の熊本県内のNPO活動について、SDGs等の視点から話題提供いただきたい。</p> <p>■対応：令和5年3月4日の第一回「くまもとサステイナブルNPOフォーラム2023」にてNPO活動に関する講師対応。また同3月25日の第二回開催にて、オンラインサポートを実施。</p> | | |

| | | | |
|------|---|-------|-----------------|
| 相談者 | NPO 法人 | | |
| 相談概要 | 発信の協力 | 初回相談日 | 令和 5 年 2 月 22 日 |
| 相談内容 | <p>例年実施している助成金事業「2023年度ドコモ市民活動団体助成事業」について、今回より生物多様性保全分野の活動団体を新たに対象とするため、広範に告知を行いたい。併せて実施する助成金説明会についての告知をいただきたい。</p> <p>■対応：EPO 九州の Web サイト、SNS、メールマガジン等で周知協力。</p> | | |

| | | | |
|------|--|-------|-----------------|
| 相談者 | 佐賀県内の地域商社 | | |
| 相談概要 | 発信の協力 | 初回相談日 | 令和 5 年 2 月 28 日 |
| 相談内容 | <p>地域循環共生圏 PF 活動団体「鹿島市ラムサール条約推進室」が推進するラムサールブランドのクラウドファンディングプロジェクトについて、集客に苦戦しているため告知に協力してほしい。</p> <p>■対応：EPO 九州の Web サイト、SNS、メールマガジン等で周知協力。</p> | | |

| | | | |
|------|---|-------|----------------|
| 相談者 | 水俣環境アカデミア | | |
| 相談概要 | 講師対応依頼 | 初回相談日 | 令和 5 年 4 月 4 日 |
| 相談内容 | <p>水俣環境アカデミア事業推進委員（委員 15 名、有識者等から構成）について女性委員を紹介いただきたい。</p> <p>また令和 5 年度の市民講座や SDGs 未来都市フェスタへの登壇、出展等の連携をいただきたい。</p> <p>■対応 事業推進委員について、連携先から委員候補を紹介した。 また、令和 5 年度の登壇や出店について担当者と協議を継続する。</p> | | |

(3) EPO ネットワークの活用

■各種情報の照会・相談への対応

■全国事業に関わる業務（全国 EPO 連絡会議への参加）

地球環境パートナーシッププラザ・地方 EPO はもとより、地域循環共生圏支援全国事務局等との連携を密にし、連絡会議等に積極的に参加し九州・沖縄ブロックとしての成果・課題の共有と発信を行った。全国事業による研修・分科会等の開催にあたっては参加協力をを行い、ネットワークづくりを支援した。

| | |
|-----------------|---|
| 行事名 | 令和4年度 第1回 全国 EPO 連絡会議 |
| 開催日等 | 日時：令和4年6月14日（火）10:00-18:00 会場：アットビジネスセンター渋谷東口駅前 402 号室（東京都） （EPO 連絡会・EPO 受託者会議） |
| 概要 | <p><次第></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会あいさつ 2. オリエンテーション 3. 議題 <ul style="list-style-type: none"> 【議題1】 <ul style="list-style-type: none"> ・参加者紹介 ・令和4年度 EPO 基盤業務の情報共有 ・令和4年度 EPO ネットワーク事業全体のスケジュール ・その他 GEOC 業務（国際、次世代意見交換会など） 【議題2】環境省からの情報共有 <ul style="list-style-type: none"> ・環境計画課（グッドライフアワード） ・自然環境計画課（森里川海） 【議題3】EPOプロジェクト業務の意見交換 <ul style="list-style-type: none"> ・脱炭素ライフスタイル推進室（20分） ・PS基盤強化取りまとめ及び令和5年度以降の予定 ・森里川海ネットワーク会合 【議題4】外部連携の情報共有 <ul style="list-style-type: none"> ・地球環境基金 ・Green Gift地球元気プログラム ・セブン-イレブン記念財団 4. 事務連絡 5. 分科会 |
| 成果 ・ 検討事項 | <p>環境省、GEOC、全国各地域の EPO 間の情報を共有し、各事業についての確認を行う今年度第一回連絡会に出席した。</p> <p>EPO ネットワーク事業について、基盤業務及び業務スケジュールの共有を行い、今年度事業の全体像について、年度当初の検討事項を確認した。</p> |

| | |
|----|---|
| | <p>また、環境省からの情報共有事項としてグッドライフアワード、地域中核人材育成事業、ESG 地域金融促進事業、「つなげよう、支えよう森里川海プロジェクト」の今年度内容について、環境計画課、自然環境計画課より説明が行われた。</p> <p>EPO プロジェクト業務として 30by30 ロードマップ、OECM 関連事業について、EPO ネットワークが寄与できるポイントについて参加者で議論を行った。またこれまで取り組みが重ねられたパートナーシップ基盤強化事業について、形成状況の取りまとめに向けたスケジュールの共有、次年度以降の展開についても意見交換を行った。</p> <p>次に、外部連携事業に関して、地球環境基金、および GreenGift 地球元気プログラムにおける令和4年度の実施について、前年度との変更点などを中心に情報を共有し協議を進めたほか、セブンイレブン記念財団との連携プロセスについても議論を行った。</p> |
| 写真 |  |

| | |
|------|--|
| 行事名 | <p>令和4年度 第2回全国 EPO 連絡会 熊本開催エクスカージョン</p> |
| 開催日等 | <p>■全国 EPO 連絡会 日時：令和4年10月11日（火）13:30～18:00 令和4年10月12日（水）9:30～11:30 （地方環境事務所会議・EPO 受託者会議） 会場：熊本城ホール 中会議室 B1-3（熊本県） オンライン：オンライン会議システム ZOOM 備考：熊本県開催に際し、環境省・GEOC と協働し開催準備を行う。</p> <p>■EPO ネットワークエクスカージョン 日時：令和4年10月12日（水）9:30～19:00 令和4年10月13日（木）8:00～15:30 会場：熊本県益城町・球磨村・八代市</p> |
| 概要 | <p>■全国 EPO 連絡会 <次第> 1. 開会あいさつ 2. オリエンテーション 3. 議題 【議題1】 PF 事業と EPO の基本機能の連動（変化・貢献・拡張）の整理 ①PS 捉え直しタスクフォースについての情報共有</p> |

| | |
|----|---|
| | <p>②本日のフレームワークの共有</p> <p>【議題2】 EPO基本機能と森里川海NW形成会合について</p> <p>① OECMに対する各地方の肌感覚共有</p> <p>② EPO基本機能と森里川海NW形成会合との連動を整理するワークショップ</p> <p>【議題3】 EPO基本機能とPS基盤強化及びPS基盤強化後継事業について</p> <p>①PS基盤強化事業の成果まとめについて進捗共有</p> <p>②PS基盤強化後継事業の説明</p> <p>③EPOの基本機能とPS基盤強化後継事業との連動を整理するワークショップ</p> <p>4. 事務連絡</p> <p>5. 閉会あいさつ</p> <p>■EPO ネットワークエクスカージョン</p> <p>・令和4年10月12日（水）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. BOXPARK マシキラリ視察（益城町） 2. 益城町復興まちづくりセンター「にじいろ」・木山神宮訪問（益城町） 「益城町役場職員による被災遺構視察」 3. 益城町総合体育館視察（益城町） 4. 田舎の体験交流館さんがうら視察及び意見交換（球磨村） 「球磨川水害時のさんがうらの活動について」 <p>・令和4年10月13日（木）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 球磨村役場訪問 復興推進課意見交換 「地域新電力及び脱炭素先行地域について」 2. 球磨川流域 水害被災地視察 3. REBORN 坂本オフィス視察及び意見交換 「八代市坂本地域での復興活動について」 |
| 成果 | <p>■全国 EPO 連絡会</p> <p>今年度第2回全国 EPO 連絡会の熊本開催について、GEOC・EPO ネットワーク・環境省と、定期的な企画検討を実施し、運営準備を行った。</p> <p>まず、今年度進捗している EPO 基盤事業について、各地方 EPO より情報共有を行い、各 EPO の取組について質疑応答と意見交換を行った。また、継続して議論を行っているパートナーシップ捉え直しタスクフォースについて、現在の進捗状況が共有された。</p> <p>OECM、30by30 の事業実装に向けて、各地方の状況を共有した上で、EPO ネットワークが備える基本機能と森里川海ネットワーク形成会合との連動について、参加者によるワークショップを実施し、成果の最大化に向けた意識が醸成された。</p> <p>続いて、パートナーシップ基盤強化事業の成果まとめプロセスに打ちの進捗が共有され、次年度以降想定される後継事業について、環境省から情報提供が行われ、参加者によるワークショップを実施し、意見交換を行った。</p> <p>連絡会の開催により、政策動向や地方 EPO の活動に関する情報が提供され、次年度以降の事業展開について具体的なイメージの共有が行われた。</p> <p>■EPO ネットワークエクスカージョン</p> <p>全国 EPO 連絡会の開催に付随して、来熊した EPO ネットワークスタッフと環境省及び地方環境事務所職員を対象としたエクスカージョンを開催し、EPO 九州の関係先を始めとした視察とアクターとの情報交換を行った。</p> |

2016年に発生した熊本地震で大きな被害を受けた熊本県益城町を訪問し、現在整備が進んでいる役場新庁舎周辺を視察し、2022年に完成した復興まちづくりセンター「にじいろ」を訪問した。センターでは地震発生時から復興に至るプロセスの中でどのような協働があったのかについて、役場職員と地域おこし協力隊、町内の神社禰宜と参加者による意見交換を実施した。

その後、熊本県球磨郡球磨村に移動し、令和2年7月豪雨災害発生時に、被災者対応の拠点として機能した田舎の体験交流館さんがうらの視察を実施した。館長より、水害発生時のタイムラインや新型コロナウイルス対応と並行した避難所運営について詳細をヒアリングした。

翌13日には球磨村役場を訪問し、脱炭素先行地域選定に至るプロセスについて説明を受け、現地新電力経営者を交え地域脱炭素の実現に向けた意見交換を実施した。

最後に球磨川流域の水害被災地を視察し、現在も続く八代市坂本地域での復興活動について、現地活動団体と意見交換を行い、環境パートナーシップ構築が災害発生時に寄与する視点について、具体的なアイデアを共有した。



| | |
|------|---|
| 行事名 | 令和4年度 第3回全国 EPO 連絡会 |
| 開催日等 | <p>■全国 EPO 連絡会</p> <p>日時：令和5年1月24日（火）10:00～17:00</p> <p>会場：GEOC スペース（東京都）</p> <p>オンライン：オンライン会議システム ZOOM</p> |
| 概要 | <p>■全国 EPO 連絡会</p> <p><次第></p> <p>1. 開会あいさつ</p> <p>2. オリエンテーションとチェックイン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PS 基盤強化事業まとめ（GEOC） ・PS 捉え直しタスクフォース等のワークショップまとめ（GEOC） ・PS 捉え直しタスクフォース参加者からまとめへのコメント（各 EPO） <p>3. 議題</p> <p>【議題1】</p> <p>令和5年度事業の予定 ※標準仕様書の補足</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共生圏 PF 事業（地域政策課） ・森里川海ネットワーク会合（自然環境計画課） ・地域からのグリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携推進事業（民活室） <p>【議題2】</p> <p>令和5年度外部連携の予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の外部連携に向けて（GEOC） ・R5年度の外部連携の見通し（GEOC） ・地域課題の解決に向けたステークホルダーミーティング（地球環境基金） <p>4. 事務連絡</p> <p>5. 分科会（地方環境事務所会議・EPO 受託者会議）</p> |
| 成果 | <p>今年度第3回全国 EPO 連絡会の開催に出席した。</p> <p>まず GEOC より、パートナーシップ基盤強化事業の成果まとめ進捗、並びに2022年12月に実施し EPO 九州が参加したパートナーシップ捉え直しタスクフォースの成果について共有された。GEOC より協働取組のプロセスとインパクト、今後の協働取組を具現化するポイントを説明し、両事業の成果について意見交換を実施した。</p> <p>続いて標準仕様書をもとに令和5年度事業の予定について検討を行い、地域循環共生圏プラットフォーム事業、森里川海ネットワーク会合、グリーン社会実現に向けたステークホルダー連携の3事業について、環境省より事業展望とスケジュールの共有が行われた。</p> <p>次に次年度外部連携事業の予定について GEOC より共有された。地球環境基金主催で開催予定のステークホルダーミーティングの調整状況、例年開催している助成金制度説明会、ユース環境活動発表大会等の各事業について、EPO ネットワークの連携可能性について、協議を行った。</p> <p>各議題について EPO 九州の取り組み状況を参加者に共有するとともに、九州・沖縄地方での展開について、具体的な検討を行った。</p> |

| | |
|----|--|
| 写真 |  |
|----|--|

■地方ネットワークとの情報交換会

| | |
|-----------------|---|
| 行事名 | 令和4年度 第1回地方EPO ネットワークとの情報交換会 |
| 開催日等 | 令和4年12月23日（金）10:00～12:00 対面：東京ウィメンズプラザ視聴覚室 場 所：オンライン会議 zoom（事務局会場：GEOC） |
| 概要 | <p><次第></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会あいさつ 2. 導入 3. 話題提供① 泉勇氣氏（地球環境局地球温暖化対策課 課長補佐） <ul style="list-style-type: none"> ・ 菅総理（当時）のCN宣言～脱炭素ロードマップ策定までの経緯のおさらい ・ 地域脱炭素に関する環境省の支援策（（株）脱炭素支援機構、交付金など） ・ 国、地方事務所、自治体の経験から見た地域脱炭素における課題と可能性 4. 質疑応答 5. 話題提供② 藤野純一氏（IGES サステナビリティ統合センター プログラムディレクター） <ul style="list-style-type: none"> ・ 国内外の地域脱炭素先行事例 ・ 地域脱炭素の実現に求められるパートナーシップと中間支援機能のあり方 6. 質疑応答 7. 意見交換 8. 閉会挨拶 |
| 成果 ・ 検討事項 | 今後検討される「地域からのグリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携促進事業（SH 連携促進事業）」を見据え、EPO ネットワークが具体の企画立案やステークホルダーと対話を行う上で、把握しておくべき情報を話題提供や意見交換をとおして共有した。 |